



鎌田地区  
令和6年7月1日現在  
総人口 20,016人  
(前年比 -24人)  
世帯数 9,675戸  
発行者 鎌田地区公民館  
公民館報編集委員会

# 鎌田地区公民館 専門委員会のご紹介

鎌田地区公民館には5つの専門委員会があります。  
今年度の委員と、各委員会の活動を紹介します。

※◎は委員長

## 館報編集委員会

館報編集委員会は年6回発行する「公民館報鎌田地区版」の作成を行っています。記事の取材や、文章の作成、校正を行っています。

### 委員

- ◎小山 淳一
- 鎌倉 弘行
- 南雲多榮子
- 五十嵐 一雄
- 小林 睦和
- 松本 捷幸



撮影中の委員



わきあいあい楽しく作っています

## 文化委員会

文化委員会は、主に食育や健康トレッキングといった講座の企画・開催をしています。

### 委員

- ◎上條 玉紀
- 清興 至
- 林 清吉
- 南澤フミ江
- 鎌倉むつ子
- 長井洋八郎
- 村上さよ子



車山トレッキング



松本一本ねぎ講座の様子

## 図書・視聴覚委員会

図書・視聴覚委員会は年4回四季に合わせたパネル作成(図書館に設置)を行っています。他にも、視察研修の企画・運営を行っています。

### 委員

- ◎高山みゆき
- 中田美千
- 前澤裕子
- 大濱マリ
- 林 愛弓
- 横山 怜



絵本の読み聞かせも  
お手のもの



好評だった  
松代の視察研修

## スポーツ委員会

スポーツ委員会は、地区住民に向けた世代を超えたスポーツ教室等の企画・運営をしています。

### 委員

- ◎近藤 邦人
- 小倉利夫
- 八木弘雄
- 幸 陽子
- 今福 圭司
- 深澤 久江
- 山本 英明
- 吉野 泰正



週2回のラジオ体操



誰でも楽しめる企画を  
考えています

## 運営委員会

運営委員会は、公民館で行う講座の検討や、鎌田地区まつりへの運営協力などを行っています。

### 委員

- ◎村松 昭雄
- 小岩井定男
- 近藤 邦人
- 南雲多榮子
- 町田 伸子
- 望月 敏通
- 上條 玉紀
- 小山 淳一
- 高山みゆき
- 藤本 礼子
- 宮沢 生式



協力して鎌田地区まつりを  
作り上げます



先日の会議の様子

鎌田地区  
喫茶

# ニコニコサロン

6月26日に、鎌田地区福祉ひろばで「ニコニコサロン」が開かれました。平成10年から行っている事業で、コロナ禍でできなかった4年を経て、今年は以前と同様の形態で再開しました。ニコニコサロンとは、気軽に来られる喫茶店のようなものです。

毎月1回福祉ひろばで開催され、ボランティアの「ひろばお助け隊」や鎌田地区食育改善推進協議会の皆さんが月替わりでお菓子を作っています。1杯100円で、手作りお菓子付きの淹れ立てコーヒーや紅茶が飲めます。

6月のサロンの目玉は、「中国伝統芸能の変面ショー」でした。音楽に合わせて顔が変わるたびに「おー!」という歓声が上がリ、参加者は手拍子をしたり写真を撮ったりしていました。

「友達に誘われて来たけど、違う町会の人とも話せて楽しい」「このような集まりがあると、いろいろな知り合いに会えるからうれしい」という声が聞かれました。

サロンでは、町会の垣根を超えた交流ができるので、ぜひご参加ください。8月は27日午後1時半からです。



▲また?また? あ!変わった



いやー、はーるかぶりだねー

## 街かどの話題 155

# 高宮町会の防災訓練

市で備蓄しているこの給水袋は、3カ所に穴があり、ひもを通すとナツプザックのようになる優れもの。市販もされています。給水車の水は水道水なので、災害時でも3日間は飲料水として利用できそうです。

今年PTAの呼びかけで親子の参加が多く、活気がありました。

5月26日、高宮町会の防災訓練で「応急給水体験」が行われ、子どもから大人まで100人近い町民が参加しました。市の担当者の説明を聞き、各自で給水車から給水袋(6L)に水を入れて、「背負って」持ち帰りました。



わあー、きれいな水だ。重たくないよ

# お宝探検 ● 小学生が地域を巡る

鎌田小学校3年生が『お宝探検』と称して、3回に分けて地域巡りをしました。案内人は鎌田地区公民館長で、1回目は5月中旬に井川城方面を歩きました。学校から龍昌寺の屋根を見ながら出発しました。薄川と田川の合流地点に架かる中条橋の上で立ち止まり、東に美ヶ原、西に北アルプスが見える位置で校歌の1番「千古の雪の輝いて、はるか乗鞍槍ヶ岳」を歌いました。



しっかりと話を聞いている3年生

田川沿いに神明社へ進み、廣正寺・井川城保育園を眺めつつ、馬頭観世音から井川城跡へと入っていくと、校歌の2番「湧き水清く流れゆく」や3番「井川の古い城のあと先祖の夢をおもつては」への理解が深まったようです。最後に頭無川・穴田川を渡り、北向観音堂・鎌田学校発祥之地を経て龍昌寺の門を見ながら学校に戻ると、たくさん歩いた疲れをにじませながらも、次回を楽しみにする子どもたちの姿がありました。

## 雑感

谷村新司の名曲「昂」の難解な歌詞は若者達への壮大なメッセージだと漠然と思っていたが、彼の死を機にあれこれ調べて彼が愛読した石川啄木の歌集「悲しき玩具」にたどり着いた▼歌詞冒頭の「目を閉じて何も見えず：」は歌集に「眼閉ずれど、心に浮かぶ何もなし。さびしくもまた眼をあけるかな」があり、貧困と結核という辛い日々、せめて心の目で何かましなものを見たくて目を閉じたが何も見えず、目の前には厳しい現実があるだけだと解釈してみた▼「呼吸をすれば胸の中：」も歌集に「呼吸すれば、胸の中にて鳴る音あり。床よりもさびしきその音」があり、結核の深刻な病状を表現していると解釈した▼「我は行く蒼白き頬のまま、我は行く蒼白き頬のまま」は結核が治らず(蒼白き頬のまま)で私は逝く。情熱を注いだ芸誌「スバル」とその仲間たちに別れを告げ「嗚呼いつの日か誰かがこの道を」と後を託す、26歳の若さで逝く啄木の無念を歌っていると解釈してみたのだが：▼もう少し深掘りが必要だろうか。(小林睦和)